

# ひょうご生物多様性シンポジウムの開催

～特定外来生物と30by30への取り組み～

- 令和7年3月に改定した「生物多様性ひょうご戦略」の基本戦略の一つに「豊かな自然環境の適切な保全」を位置づけ、具体的な行動目標※を設定

※「30by30（サーティ・バイ・サーティ）の推進」と「特定外来生物の早期発見・早期防除」等

## 30by30 目標

2030年までに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標

- 生物多様性を守り、豊かな自然を未来に引き継ぐためには、若者世代や企業、NPO、団体など、多様な主体による特定外来生物の拡大防止や自然環境の保全等の取組推進が不可欠
- 県内の高校生や大学生、企業、NPO等を対象にしたシンポジウムを開催し、30by30の実現に必要な取り組みと、特定外来生物の拡大防止に向けた普及啓発を強化

## 1 開催日時

令和7年 12月 19日(金) 開場13:00 開演13:30

## 2 開催場所

兵庫県立大学神戸商科キャンパス 三木記念講堂

兵庫県神戸市西区学園西町8丁目2-1

神戸市営地下鉄山手線「学園都市駅」駅から徒歩約15分

## 3 参加申込

事前申込要(先着順) 定員 500名 参加無料

4 主催 兵庫県

5 共催 神戸市、明石市



申込フォーム



## プログラム

13：30～13：35

主催挨拶

13：35～14：35

## 生物学的侵入のリスクと課題について

五箇公一氏 国立環境研究所 特命研究員

講師プロフィール

1965年富山県出身の生態学者。専門は保全生態学、農薬化学、ダニ学  
京都大学大学院修士課程修了後、大手化学メーカーに勤務し、同社在籍中に京都大学において博士（農学）の学位を取得。  
その後、国立環境研究所に転じ、『生物多様性の減少機構の解明と保全プロジェクトグループ』総合研究官などを担当し、化学物質を規制する法律改正などに関わった。国立環境研究所勤務の傍ら、東京大学、東京農工大学、お茶の水女子大学等で非常勤講師を務めた。

内容

生態学の権威であり、国立環境研究所の特命研究員を務める五箇公一氏を招聘し、本講演のテーマである特定外来生物に係る国内の現状とその脅威についても講演。

14：35～15：05

## ひょうごの生物多様性の保全と自然再生

三橋弘宗氏 兵庫県立大学 講師 兵庫県環境審議会委員

内容

昨年度、兵庫県が改定した「生物多様性ひょうご戦略」の概要及び国が定めた30by30目標に向けての県内の取り組み状況について講演。

15：05～15：25

## みんなでやる外来種対策

谷口真理氏 株式会社自然回復 代表取締役

内容

小学校向けに実施している環境出前授業の事例などを紹介し、多様な世代が環境事業に興味を持てるような施策について講演

## プログラム

15：25～15：45

## 特定外来生物「アライグマ」の被害状況と対策事例

栗山武夫氏 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 准教授

内容

兵庫県内で分布の広がりを見せているアライグマの被害状況と、実施中の防除対策事例を紹介。個体数削減に向けての取り組みと今後の戦略を講演。

15：45～16：05

## 明石市石ヶ谷公園での特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」防除対策

県立明石北高等学校

内容

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校である県立明石北高等学校の生徒が、明石市にある石ヶ谷公園で実施中のクビアカツヤカミキリ対策事例を講演。

16：05～16：15

## 特定外来生物拡大防止Hyogo宣言の採択

16：15

閉会